特集

世界を見てきた黒部の若者

青年海外協力隊の活動を通じて

独立行政法人国際協力機構（JICA）青年海外協力隊※1（以下協力隊という）として2年間カメルーンで活動していた吉田（よしだ）詩甫子（しほこ）さん（27歳）、ラオスで活動していた長田（ながた）光司（こうじ）さん（28歳）。それぞれの分野でそれぞれの地域に派遣されましたが、自分たちの体験を伝えることで、若い人たちが気軽に海外へ行き、様々な体験ができるような機会をつくっていきたいという共通の思いがあります。

今回は2人に活動で感じたことや今後やりたいことについてお聞きしました。

※1 青年海外協力隊
開発途上国で現地の人々と共に生活し、同じ目線で途上国の課題解決に貢献する活動を行っている。帰国後は、日本をはじめ様々な国や分野で、経験を活かした貢献が期待されている。

吉田 詩甫子さん
SHIHOKO YOSHIDA

青年海外協力隊として世界を見たい

海外に対してや発展途上国の環境に関して興味があった吉田さんは、大学の教育系学部で学んでいた時に協力隊の話を聞く機会があり、自分も行きたいと思いました。しかし協力隊として活動するには、まだ教育に関する知識や能力が足りていないと思い、大学を卒業して一度教員になって経験を積むことにしました。

教員として働くうちに、「子どもたちは学校や家庭の中で見たり聞いたりすることだけではなく、もっと広い世界があるということを知る機会が少ないのではないか?」と感じるようになり、子どもたちが多様な価値観を持てるように自分が体験したことを伝えたいと思い、協力隊の試験を受けました。そして、2年前（当時25歳）にカメルーンへ配属されることになりました。

体験による学びを伝える

吉田さんが配属された地域は、協力隊が初めて派遣される地域でした。その町に初めて来た日本人でもあり、町の人からは「何しに来た人なの?」と思われたり、派遣先の小学校では最初は教育実習生のように思われ、自分の役割を説明するのに時間がかかりましたが、根気よく話していくうちに先生方にも理解してもらえたそうです。

配属先の小学校では体育や図工、音楽などを教えました。カメルーンの教員養成校では、体育・図工・音楽の指導についてはほとんど学ばず、教科書もないので、現地の先生方もどう教えて良いか分からず困っています。吉田さんがそれらの教科でできることを教えると、先生方も「私もやりたい!」と興味を持ってくれたそうです。「ちょっとずつでしたが、自分ができることを現地の先生方に見せて納得してもらい、協力してもらっていました。そして、一緒に授業に出て、子どもたちに教えたりもしました」と話します。

自分ができる事を考え、授業に活かしました

子どもを大切にするカメルーン

吉田さんは任期が終わる前に、運動会を企画しました。カメルーンでは学校行事が全くないため、運動会もほとんどの先生が知りませんでしたが、配属先の上司が運動会を知っており、配属された時から「運動会をやってほしい」と頼まれていました。「実現することは難しいかなと思っていましたが、子どもたちの印象に残るだろうし、経験が一番の学びだと思ったのでやれるだけやってみようと思いました」と話します。

台風の目。日本でおなじみの競技も行いました

競技備品については、JICAから資金を援助してもらいましたが、子どもたちが当日に飲む水など飲食物に対しての援助は難しいため、地域の商店や会社に寄付金を募りました。どこも快く協力してくれたのを見て「子どものためなら大人たちは動いてくれるんだと思って、すごく嬉しかったです。地域の皆さんのおかげで、飲み水を渡したり運動会が終わった後に参加賞を渡したりすることができました。初めての運動会でドキドキしましたが、終わった後の子どもたちの笑顔や達成感に満ち溢れた表情は忘れられません。先生方も満足しているようでした」と話します。

子どもたちにも経験と出会いの場を

今後については、まだ具体的なことは決まっていないそうですが、今まで経験してきたことを活かして地元で教育に関わっていきたいと話します。「私自身、地域に育ててもらったので地元である黒部を大切にしたいと思っています。何より『経験』が一番の学びだと思っています。だからこそ自分自身も海外に行ったり、授業をしたりする中でも経験を大事にして活動をしてきました。子どもたちがもっと地域の人と関わったり、高齢者やいろいろな活動をしている人たちとつながれるような場所や機会をつくっていきたいと思っています」と話します。

図工で折り紙の箱を作りました
子どもたちは帽子にするのが1番お気に入りでした

カメルーンの授業ではあまりなかった
グループ活動を提案しました

長田 光司さん
KOJI NAGATA

異国の地で初めての試み

長田さんは、大学生の時からエコヘルスプロジェクトという学校のプロジェクトに携わり、環境教育と健康教育を合わせた新しい授業やカリキュラムを作ってラオスに広める活動をしていました。「学生時代にお世話になった皆さんに恩返しをしたいと思い、ラオスへの派遣を希望しました」と話す長田さんは、協力隊でも引き続きエコヘルスプロジェクトに携わり、ラオスの教員養成校で環境教育や健康教育を広める活動（エコヘルス教育）を行いました。「例えば、ゴミのポイ捨てをしたら、そのゴミがどうなっていくのか。そのゴミが川に流れていくと自然環境を破壊していくということを伝えました。今のラオスは将来の環境を考えずに工場が次々と建っており、このまま工業化が進んで行ったらどういう影響が出るか、日本の過去の公害の話もしながら教えていきました」と話します。

協力隊によるエコヘルス教育は長田さんが初代でしたが、「0からのスタートだったので、ラオス人も知らないし、僕もどう進めていいかわかりませんでした。0から1にするのがすごく難しかったですが、何とか1にできて後任に引き継げたかなと思います」と話し、子どもたちや若者の教育を充実させていくことと、教育へ投資することの大切さを感じたそうです。

また、小学校で学校保健の活動をしていた時に、チャイルドヘルスクラブという子どもたち主体の保健委員会を企画しました。「先生たちからは『子どもたちはわがままだし、自分たちだけで委員会を運営することなんてできないよ』と言われたけど、とりあえず子どもたちだけで身体測定の活動を1回やってもらいました。上手に測定している子どもたちを見て、先生たちも子どもたちの可能性に気づいてくれた時は嬉しかったですね」と話します。先生たちもやる気が出てきて、「今度はこんな授業がしたい。あんな活動がしたい」と活発な意見が出てきた時はやりがいを感じたそうです。

身体測定のやり方を実際に行いながら教えました

仏教から感じる優しさ

長田さんはラオス人の優しさはどこから来るのか、その優しさに迫りたいと思い、協力隊の任期中に17日間出家の体験もしました。「学校に通えない子どもたちはお寺に預けられてお坊さんになります。お寺では衣食住がそろい、学費も無料になるのでラオスの仏教はお金の貧しい人たちの社会保障の役割も担っていて驚きました」と話します。

海外から未来を考える

長田さんはラオスへの派遣終了後、協力隊とは別に昨年10月からカンボジアでシェアハウス※2の立ち上げに関わっています。「お金がなくても何かやりたい」と思っている人たちに出資して応援するしくみを作ったり、新しい事業や活動にチャレンジする人たちが生活できるようなシェアハウスをこれから増やしていきたいそうです。

また、協力隊の活動と同時にSNSで情報を発信しながら不登校支援にも関わっており、「僕は、不登校支援をずっとやっていきたいと思っています。不登校生たちは人生のレールを外れて価値を提供できない人間のように思われがちですが、実際はいろいろな価値を持っています。そういった人たちを応援する人がいれば、今後いろいろな可能性が出てくると思います。学習支援をしたり海外に連れて行って、ラオスやカンボジアのような世界も見せてあげたりすると心境の変化があると思うので、そういった環境を作っていくことが僕の夢ですね」と話します。

さらに、長田さんは10代20代で海外に出たり様々な体験することは大事だと感じ、「高校生の可能性をもっといろいろ広げたり、選択肢を増やしていけたらいいなと思います。日本の子どもたちの未来を大事にしていきたいので、そのためにも今は世界で活動して、自分の知識や経験を増やしていきたいと思っています」と話します。今後は、海外でも安心できる仲間が集い、安く滞在できるような場所を作って、若い人たちが海外へ行くハードルを低くしていきたいそうです。

※2 シェアハウス
1軒の住居を複数人で共有すること。リビングや台所、浴室などを共有し、各住人の個室をプライベート空間とする。

歯の正しい磨き方を教えました

可能性を引き出せる社会に

若い時や子どもの頃の経験は積み重なり、記憶に残っていくことで価値観を広げることができます。選択肢を増やしたり考え方を広げる機会を増やすのは年齢を重ねてからでも遅くないですが、若い時の方がより効果的です。

2人のお話を聞いて、様々な出会いを経験して成長していく子どもたちや若い人たちが可能性やチャンスを広げ、活かせるような社会にしていくことが大切だと感じました。また、実際に海外で生活し、現場を見てコミュニケーションをとってきた人たちが気づいたことや感じたこと、世界を知ることの必要性を伝えていける機会をつくっていけたらと思いました。

エコヘルス教育の教員研修会で
効果的な指導法についてディスカッションしました

ふくしスマイルワーカー

福祉に携わる人のお仕事拝見!

スマイル Vol.58

一般財団法人　黒部市施設管理公社
黒部市立東部児童センター
館長/児童厚生員

道前（みちまえ） 幸代（ゆきよ） さん(50歳)

好きな食べ物　ケーキ

どんな時にやりがいを感じますか?

勤労者体育センターと併設しているということもあり、幼児から大人になるまでの成長していく姿を折にふれて見られることがこの職場の良いところです。

大人になって今度は自分の子どもを連れて遊びに来てくれたりするのも、とても嬉しいですね。

また、センターは子どもたちの遊ぶ場であり、子育て中のお母さん方の集いの場でもあると思っています。お母さん方の子育ての不安や悩みを聞き、心が少しでも軽くなっていく様子が見られると、よかったなという気持ちになります。

子どもたちが喜んでくれるような活動や企画を考えサポートします

写真レポート

11月17日(土) 沓掛公民館

沓掛地区シルバー談話室（大布施）

地区の方々による舞踊やギターの弾き語り、ハーモニカの演奏といった演芸会が行われ、発表者と参加者が楽しい時間を過ごしました。

10月24日（水） 村椿小学校

村椿小学校 福祉体験教室

6年生23名が高齢者疑似体験や車椅子体験を行いました。お年寄りや車椅子利用者の気持ちや、手助けする際のポイントなどを学びました。

活動レポート

若栗地区ふれあいランチ

11月15日(木)若栗(わかの)ふれあいセンターで若栗地区ふれあいランチが開催されました。若栗小学校の児童が富山県小学生火災予防研究発表大会に出場することになり、地域の方々にもその内容を聴いてもらおうと、今回4年生20名も初めて参加しました。

発表後は地域の方や民生児童委員のみなさんと一緒に食事をしながら、「さっきの発表素敵だったよ」「もっと食べられ」などと会話を楽しみました。最初は緊張した面持ちだった参加者も次第に打ち解け、世代を越えて交流を深めました。

pick up!

ボランティア部会の手作り弁当を味わいながら
和やかにお話するみなさん

イベントPICK UP

簡単！おいしい！コーヒーセミナー

コーヒーの抽出方法や焙煎などを体験し、みんなで楽しいひと時を過ごしませんか。おいしいスイーツもあります。

平成31年 1月29日(火)

[時間] 13:30〜15:30
[場所] 大布施公民館　調理室
[募集人数] 15名
[持ち物] エプロン
[参加費] 500円
[講師] 水の時計　北山 晃 氏

※申し込みは1月4日(金)〜1月22日(火)まで
※定員になり次第受付を終了します。

申し込み

黒部市社会福祉協議会 TEL.0765-54-1082
担当 佐渡まで

雪とともに暮らす人たちを支える

あったか雪募金

**あの人が
雪を嫌いになってしまう前に。**

白くてきれいな雪は、
まちを銀世界に変えてしまう魔法のようです。
でも、たくさん積もってしまうと
毎日の暮らしに「困ったなあ」をたくさん
作ってしまいます。
「あったか雪募金」は、雪がたくさん積もってしまって
困る皆さんを支えるための募金です。
雪と生きるわたしたちの町ならではの、
あたたかい気持ちを募っています。

実施期間 2019.1.1(火)▸3.31(日)

富山県黒部市共同募金委員会
〒938-0022　富山県黒部市金屋464-1
TEL.0765-54-1082

地域福祉のために

黒部市社会福祉協議会に
寄付をいただきました
ありがとうございました

◉黒部市農業協同組合 様

◉黒部市シルバー人材センター 様

今月の相談日

民生委員児童委員と心配ごと相談
行政相談員と行政相談　予約不要

黒部市福祉センター(金屋464-1)
1月8日(火)　13:30〜15:30
黒部市立中央公民館(宇奈月町浦山2100-2)
1月10日(木)　13:30〜15:30

弁護士と法律相談　予約受付／1月4日より

黒部市福祉センター(金屋464-1)
1月15日(火)　13:30〜15:30
同じ相談内容の場合は、
お一人様につき3回までとさせていただきます。

富山県東部生活自立支援センター
生活自立支援相談　予約受付／1月4日より

黒部市福祉センター(金屋464-1)
1月7日(月)　10:00〜11:30

黒部市福祉センターのお知らせ

[利用時間] 8:30〜16:30 [入浴] 10:00〜16:00

催し物と休館日のご案内

1月

12日(土)	日本海歌謡研究会	10:30〜
19日(土)	歌謡パラダイス	10:30〜
26日(土)	YKK社友会歌謡同好会	10:30〜
27日(日)	魚津カラオケ友好会	10:30〜

休館日　毎週月曜日(7日・14日・21日・28日)
※12月30日(日)〜1月3日(木)は年末年始の為、休業します。

2月

17日(日)	こぶしカラオケ愛好会	10:30〜
23日(土)	華の会歌謡ショー	10:30〜
24日(日)	はまなすカラオケ&踊り	10:30〜

休館日　毎週月曜日(4日・11日・18日・25日)

今月のクラブ

囲碁・将棋クラブ
金曜日(4日・11日・18日・25日)

元気カラオケクラブ
木曜日(10日・24日)

手芸部
木曜日(17日)

ポールウォーキング
(11日・25日)

誕生日のお祝いに福祉センターの
入浴券はいかがですか？
11枚綴り 3,000円

特集

世界を見てきた黒部の若者

青年海外協力隊の活動を通じて

吉田詩甫子さん

長田光司さん

福祉くろべ

2019 1月 Vol.154

[編集・発行] 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 平成31年1月1日発行

この広報誌は一部共同募金の助成金により発行されています。

うなづき ［参加費］150円（入館料のみ）

2019 1月

介護予防通所事業

生き生き倶楽部

黒部市宇奈月老人福祉センターにて

［時間］9:30～15:00 ［対象］65歳以上の方

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1 元日	2	3	4 レクリエーション	5
6	7 季節行事	8 季節行事	9	10 季節行事	11 季節行事	12
13	14 成人の日	15 健康体操B	16 レクリエーション	17 スポレク	18 自力整体	19
20	21 健康体操A	22 レクリエーション	23	24 健康体操B	25 スポレク	26
27	28 レクリエーション	29 自力整体	30	31 レクリエーション	1	2

時間／10:00～ ※■は休館日

健康体操A 石田みどり 先生　健康体操B 村田あゆみ 先生

自力整体 稲田　清美 先生　スポレク 健康増進課職員

季節行事 「書き初め」

くろべ ［参加費］300円（入館料のみ）

2019 1月

介護予防のための

元気はつらつ体操教室

黒部市福祉センターにて

［時間］10:00～11:00 ［対象］65歳以上の方

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1 元日	2	3	4	5
6	7	8 音楽療法	9 音楽療法	10 音楽療法	11 音楽療法	12
13	14 成人の日	15	16 自力整体	17 健康体操A	18 健康体操A	19
20	21	22 アロマ・ヨガ	23 アロマ・ヨガ	24 自力整体	25 アロマ・ヨガ	26
27	28	29 健康体操A	30 健康体操A	31 アロマ・ヨガ	1	2

時間／10:00～ ※■は休館日

アロマ・ヨガ 村田あゆみ 先生　健康体操A 炭田 亮子 先生

自力整体 稲田　清美 先生　音楽療法 畠山 悦子 先生

読んで効く 健康 ミニコラム

お風呂でのヒートショックを防ぎましょう！

冬場は、ヒートショックを起こしやすく、生命に危険を及ぼすこともあるので要注意！！入浴のひと工夫を心がけましょう。

入浴前に脱衣所・浴室を暖めましょう

- 脱衣所を暖房器具で暖める
- 入浴前にシャワーを出す、浴槽のフタを開ける

体に負担がかからない入浴をしましょう

- 入浴前後の水分補給
- 足先などから、かけ湯をする

お問い合わせは黒部市宇奈月老人福祉センター
TEL.(0765)65-1820 担当：山内まで

今月の表紙

日の出が綺麗な景色を探して市内を回ってみると、普段は意外と見ていないことに気付かされました。
1年の始まりにしか見られない「初日の出」だけは、ゆっくりと眺めてみるのもいいかもしれませんね。

福祉・ボランティアに関することは

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

http://www.kurobesw.com/

本所 黒部市福祉センター内
〒938-0022 黒部市金屋464-1 TEL.(0765)54-1082(代表) FAX.(0765)52-2797
TEL.(0765)57-1089(ケアセンター・ホームヘルプセンター) Eメール kurobesw@ma.mrr.jp

宇奈月支所・黒部市東部地域包括支援センター 黒部市宇奈月老人福祉センター内
〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山2111 TEL.(0765)65-1165 FAX.(0765)65-9533
Eメール tobu-houkatsu@kurobesw.jp

ちょこっと情報 ［黒部市の人口］41,493人 ［65歳以上の人口］12,791人 高齢化率 30.8% H30.11.30 現在